

木と土と竹で、家をつくっています。

近くの山の木を一本一本加工して、釘を使わず組みたてる。
竹を割って下地をつくり、土を塗って乾くのを待つ。
効率を考えたら、笑われてしまうのかもしれない。
でも、無駄とも思える時間に、意味があるのかもしれない。

それはただの家づくりではなくて、
山と人がつながり、過去と未来がつながることなのだと、
私たちは信じています。

自然とともにある暮らしと、100年後の古民家。
いっしょに、つくりませんか。

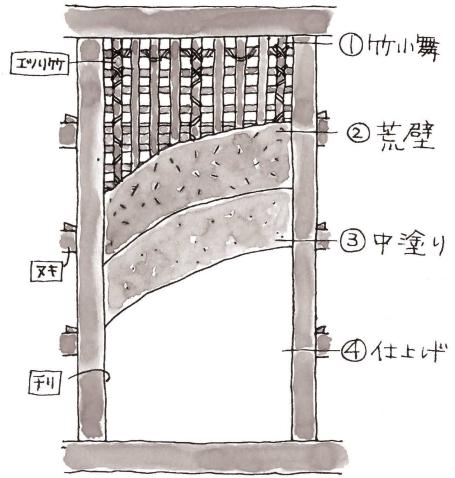
いっしょに
つくる

木
と
土
と
竹
の
家。

木と土と竹の家つて？

伝統的な「木組み」の構造と、竹の下地に土を塗る「土壁（つちかべ）」を組み合わせた家です。構造は、大工さんが地元の木に継手や仕口を加工し、釘を使わず組み立てます。壁は、竹を割ってフェンス状の下地をつくり、その上に土を何回かに分けて塗っていきます。

現在主流の「在来工法」ではなく、「伝統構法」と呼ばれるつくりかたです。特徴は（ざっくりまとめると）以下の3つです。



自然な素材。

01

木や土は建築後も呼吸をするので、室内的空気がすがすがしい。また、木は最終的には土に返り、土壁の土は練れば再利用できるなど、解体時の廃棄物も少なくすみます。



にっぽんの構造。

02

大工さんが木のクセをみながら一本一本加工する構造は、高い技術によるもの。地震にも粘り強く耐えます。日本の風土に根ざした手仕事は、何よりうつくしい。



みんなでつくる。

03

竹の下地「竹小舞」づくりや、土壁の一層目「荒壁」塗りは、昔は農閑期の共同作業でした。今改めて、みんなでものをつくる楽しさを、体験してほしいです。

ワークショップ

現場めい！



面白さを体験できる参加型ワークショップを開催しています。

- ・竹小舞をつくろう！
 - ・荒壁をぬろう！
- (その他、現場に応じて色々あるかも)

泥んこ作業もありますし翌日は筋肉痛ですが、みんなでわーわー言いながらの作業はとにかく楽しいです。
興味がわいたら、ぜひ来てください！



しまもと建築

下本晴夫

林学系大学院卒業後、林業実務を経て、伝統構法の工務店で修行。木のよさを活かした家づくりを実践する。



まつだ左官

松田孝司

松本に5代続く「まつだ左官」代表。城や蔵などの修復、自然素材を活かした伝統的な左官工事を得意とする。



設計事務所ランドシャフト

堀越みどり

建築にまつわるいくつかの職種を経て、安曇野市にて設計事務所設立。森と街と人をつなぐ。がテーマ。

for more information

<http://landschaft.jp/>

landschaft.daw@gmail.com

